

## 【協憲久さん（有）丸あ製紙所会長】

「昨年はおかげ様で創業 110 周年を迎えることができました。昭和 37 年に機械化していません。求められる紙は事務機器などの変遷によって時代と共に変わりますが、私たちが雁皮や三極の半紙を作り続けるのは、昔ながらの良い紙を残していくという使命があるからです」



4代目の社長を継いだ正樹さん。丸あ製紙所ではOA用和紙など、時代に応じた紙も抄く。そのなかで最大限、手漉きに近い機械抄きを守っているのが、4代にわたる伝統への思い。



雁皮（写真上・下）は高知と徳島から。雁皮はフィリピン産。ネリは化学合成でなく天然のトロロアオイとノリウツギを選択。トロロアオイは北関東での契約栽培。原料も副資材の天然ネリも生産量が減っており、「あと10年」との危機感を持っている。



機械抄紙なので、このプール1杯の雁皮を1日で使う。  
（写真上）三極の書道半紙。